

smile



キラキラ
笑顔



●不知火海の火まつりで景行天皇のお后役を務めた田川香織さん(21歳・不知火町松合)「勤務先(特別養護老人ホーム「蕉夢苑」)の薦めで応募しましたところ、お后に選ばれました。お后役と、宇城市になって最初のお祭りということで、大変緊張しました」



西川 満さん (22歳・福岡県行橋市出身) 高本政秀さん (24歳・菊池市七城町出身)

●三角町波多のリハビリテーション専門学校メディカルカレッジ青照館(徳永温正学校長)に通う西川さんと高本さん。9月10日までの夏休み期間を利用し、3日間、宇城市三角支所で文書配布のボランティア。「青照館はいい学校なので、皆さん受験してください! 秋の文化祭にもぜひ来てください」

海原に古代の火出現
不知火海の火まつり2005



◀海上のかがり火受けを狙って火の矢を放つ射手

景行天皇役の阿曾田清市長を先頭に会場を練り歩きたいまつ行列の一行 ▼



毎年八朔(旧暦8月1日)に出現する「不知火」を市民みんなで楽しもうと、「海の火まつり2005」が9月3日、天の平農村公園(不知火町松合)をメイン会場に開催されました。

夕暮れ時、景行天皇にふんじた阿曾田清市長と、公募で選ばれたお后役の田川香織さんに乗せた「巡幸船」が永尾神社の海中鳥居近くに姿を現すと、古代衣装姿の射手が、海岸から火の矢を放ち、海上に設置されたかがり火受けに点火。無事、巡幸船を岸まで導きました。岸では、古代装束姿の約50人が船を出迎え、メイン会場まで、たいまつを掲げて練り歩きました。

会場では、太鼓演奏や総踊り、浴衣コンテスト、そして不知火町出身歌手「際田まみライブ」などを実施。4日未明には、不知火現象が確認され「不知火観望」も大変にぎわいました。



不知火町松合の海上を彩った美しい数々の花火が観客を魅了

宇城市として初参加の県体 男女総合7位、女子総合5位と健闘

9月17日・18日の両日、第60回県民体育祭が人吉・球磨地方を主会場に開かれました。「鮎おどり文化の薫りに汗光る2005人吉球磨県体」をスローガンに、県内21郡市の選手・役員約8,000人が参加。公開競技を含む29競技で熱戦を繰り広げ、気温30度を超える真夏日の下、日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮しました。今回は初参加となった宇城市は、29種目の競技に約400人が出場。それぞれの競技で活躍し、男女総合7位、女子総合5位の成績を収めました。

団体の競技別では、惜しくも優勝を逃しましたが、ハンドボール女子、ゲートボール男子、ゲートボール女子、グラウンドゴルフ女子が準優勝、バレーボール女子、卓球が3位に入りました。

選手の皆さん、大変お疲れさまでした。来年のさらなる活躍に期待しています。

なお、来年の県民体育祭は上益城郡を主会場に行われます。



宇城市選手団の入場行進



惜しくも準優勝のゲートボール男子



大健闘のバレーボール女子は3位

ハイレベルな試合を展開
少年サッカーで小川JFCが3位

9月3日・4日の両日、第3回小川JFC杯少年サッカー大会が観音山総合運動公園グラウンドで開催されました。

県内の強豪10チームが出場。6年生主体のA戦、5年生主体のB戦に分かれて熱戦を展開し、高度なテクニックを披露しました。地元小川JFCチームは、保護者らの大きな声援を受け奮闘し、A戦・B戦共に好成績を残しました。

結果は次のとおりです。

【A戦】優勝:リベルタ北熊本 2位:春日 3位:小川JFC 【B戦】優勝:春日イーグルス 2位:スポーツの森大津 3位:小川JFC



華麗なドリブルで相手をほんろう

新しい特産品を生み出そう
イチジクで調理実演と試食会

8月31日、三角町の農産加工開発製造研究会(宮田研蔵会長)の研修会(意見交換会)が同町の郡浦市民館でありました。

JA熊本うき三角地区イチジク部会の指導の下、イチジクを使った「ゼリー」「ジャム」「コンポート」「干しイチジク」のほか、縦に切ったイチジクをシソの葉で巻いて揚げた「イチジクの天ぷら」といった変り種も実演。宮田会長は「今後とも丹精込めて育て上げた農産物が無駄にならないように、併せて『地域おこし』を目指して引き続き活動していきたい」と話しました。



イチジク料理を実演する部会のメンバー。円内はイチジクゼリー